

東京都と大学との共同事業

[経緯・目的]

○第3回大学との定例懇談会（*）（令和元年5月） 立教大学総長発言

「懇談会に参加する大学が役割分担し、都が大学と共にSDGsを実現する取組をしてはいかがか」

○第5回大学との定例懇談会（*）（令和2年2月） 事業スキームについて承認

（*）東京2020大会の成功と、その後の東京が持続的に成長していくため、大学の知見や新たな発想を都の政策に結び付けるべく、恒常的なコミュニケーションをより深めるためのプラットフォームとして平成30年度に設置（現在都内27大学が参加）

定例懇談会における意見交換に加え、大学の持つ「知」のリソースを一層活用した「SDGsの推進と持続可能な都市・東京の実現」に向けた新たな連携取組

1. 東京都と大学との共同事業

- ✓SDGsの推進や都の目指すビジョン達成に資する共同研究や共同事業を実施
- ✓共同事業とは、
 - ・懇談会のメンバーが複数参加
 - ・研究等の成果を都民等に還元
(シンポジウムや高校での講座など)
- ✓都は経費の一部を支援(600万円/プロジェクト)

2. SDGsに関連する情報発信プラットフォーム

- ✓都HPに「情報発信プラットフォーム」を設け、定例懇談会参加大学の取組を集約し都民へ発信
- ✓掲載内容は、
 - ・各大学におけるSDGsに対する理念や取組
 - ・SDGs17目標達成に関連する教育・研究内容
 - ・上記に関連する、各大学HPのリンク
 - ・都の長期戦略とSDGsの関係

東京都と大学との共同事業 これまでのテーマ・事業実績

令和2年度 テーマ：Community×SDGs（コミュニティの活性化、多様性、共生社会の実現）

参加大学	事業概要
順天堂大学 帝京大学	<u>医療機関への「やさしい日本語」の普及</u>
法政大学 東洋大学・東京工業大学	<u>災害時における大学キャンパスを活用した避難手法の検証</u>
専修大学 中央大学	<u>大学と地域が連携した「食」を通じたコミュニティ活性化</u>

令和3年度 テーマ：サステナブル・リカバリー（コロナを経て未来に向けた持続可能な回復）

参加大学	事業概要
電気通信大学・ 東京大学	<u>地域参加による換気の可視化向上プロジェクト</u>
東京藝術大学 東京大学	<u>デジタル上野の杜プロジェクト</u>
東京都立大学 早稲田大学	<u>外国人材との協働コミュニティを創出するためのパターン・ランゲージの開発と普及推進</u>

令和4年度 テーマ：-After TOKYO2020- レガシーの発展による「未来の東京」の実現

参加大学	事業概要
早稲田大学 お茶の水女子大学	<u>都営バスのリアルタイム運行データを用いた渋滞検知サービス</u>
国土舘大学 中央大学	<u>スポーツ事故ゼロを目指した安全・安心な環境の提供</u>
東京医科歯科大学 東京大学	<u>インクルーシブフードの開発と普及</u>

※下線は代表者

テーマ：-After TOKYO2020- レガシーの発展による「未来の東京」の実現

- コロナ禍という困難な状況の中で、感染症対策などの危機管理を徹底し、東京2020大会を安全・安心に成し遂げることができた。また、大会を通じて、障害の有無・人種・性別などを越えて多様な人々が互いに認め合う共生社会への実感を広げるとともに、環境先進都市のモデルとなる取組や最先端のテクノロジーなど、東京の多様な魅力を世界に発信してきた。
- 今後、こうした、大会を通じて生み出されたレガシーを、「未来の東京」のスタンプとして社会全体に広げていくとともに、新型コロナとの闘いで生じた様々な変革、少子高齢・人口減少社会の進行、脱炭素・デジタル化の潮流等を踏まえて、未来を切り開く取組を加速するために、“After TOKYO2020” をテーマとして、共同事業を募集する。

募集分野	事業イメージ
<p>①都民の命と生活を守る 「安全・安心」</p>	<p>◆感染症対策と社会経済活動との両立 ◆コロナ禍における孤独・孤立対策 ◆コロナ禍を踏まえたデジタル活用による高齢者等の健康増進、交流機会創出等 ◆地域のつながりやデジタルを活用した防災・防犯対策 など</p>
<p>②ハード・ソフトのバリアを 解消し、人と人がつながる 「共生社会」</p>	<p>◆AR等の活用によるバリアフリーナビゲーション（車椅子、外国人等） ◆多文化共生に向けた交流機会の創出 ◆ボランティアマインドの定着と地域参加 ◆VR・ロボット等を活用した障害児の体験機会の創出 ◆コロナ禍を踏まえた地域における居場所の創出・コミュニティ活性化 ◆多世代交流によるデジタルデバイド対策 など</p>
<p>③サステナブルで 魅力あふれる社会</p>	<p>◆ゼロエミッションに向けた行動変容の促進（再エネ、ZEV、代替プラスチックの選択等） ◆防災備蓄食品の有効活用の仕組みづくりなどの食品ロス対策 ◆VR等の最先端技術を活用したスポーツの「する・みる・支える」の促進 ◆リアルとバーチャルの融合による芸術・文化の発信、観光コンテンツの創出 ◆デジタルツインの活用（防災、観光、混雑可視化等） など</p>

令和4年度 決定事業の紹介

都営バスのリアルタイム運行データを用いた渋滞検知サービス

(早稲田大学・お茶の水女子大学)

- 都営バスのリアルタイム停留所発車時刻データと機械学習 (AI) を組み合わせて、**新たな渋滞検知サービスを開発**し、WEBサイトで渋滞情報を提供
(既存サービスではカバーしていない地元に着した一般道路エリアまで検知を拡大)
- 開発した**渋滞検知方法を公開**し、**第三者への技術移転**を目指す
(カーナビやスマホアプリによるルート検索の精度向上に貢献)
- 東京2020大会に向けた**混雑緩和の取組を発展**させ、脱炭素社会実現にも貢献

ゴール: 渋滞検知路線拡大と
渋滞検知精度向上



都営バス・リアルタイム運行データ(停留所発車時刻データ)の活用



- ① 走行速度に影響を与える**ノイズ**(信号, 停車, バス固有の特性)を除去
- ② 機械学習 (AI) (過去の走行データにより学習) により、停留所区間の渋滞検知
(都営バス131系統 1547停留所間を対象)